

事業報告書

令和5年度

【令和5年4月1日から令和6年3月31日まで】

学校法人 常磐会学園

1. 法人の概要

- ① 名称 : 学校法人常磐会学園
② 住所等 : 大阪府大阪市平野区平野南4-6-7
電話番号 : 06-6709-3170
ファックス : 06-6709-2201
ホームページ : <https://www.tokiwakai.ac.jp/aboutus/tokiwakaigakuen>

③ 設置する幼稚園名

- 幼稚園の名称 : 認定こども園 常磐会短期大学附属常磐会幼稚園
: 幼保連携型認定こども園 常磐会短期大学附属いずみがおか幼稚園
: 認定こども園 常磐会短期大学附属茨木高美幼稚園

認定こども園を構成する施設	名称	幼保連携型認定こども園 常磐会短期大学附属 いずみがおか幼稚園	種別	学校法人 幼保連携型認定こども園
			認可等年月日	昭和47年4月1日
	所在地	堺市南区三原台3丁3番1号	認可等定員	215名 1号認定子ども 55名 2号認定子ども 100名 3号認定子ども 60名
			園長名(就任年月日)	高田 昌代(2019年4月1日)

- 電話番号 : 072-291-0393
ファックス : 072-291-4093
ホームページ : [http://izumigaoka-youchien.com./](http://izumigaoka-youchien.com/)
メールアドレス : izumigaoka-youchien@siren.ocn.ne.jp

- ④ 理事長氏名 : おかもと かずえ
岡本 和恵

※理事11人、監事2人、評議員20人

- ・ 定例理事会 年11回開催(毎月開催、但し8月を除く)
- ・ 定例評議員会 年4回開催(5月・11月・2月・3月)

⑤ 全職員の配置

認定こども園
園長（1名）

教頭（1名）
主幹保育教諭（2名）
指導保育教諭（1名）
保育教諭（10名） 兼任保育教諭（26名）
専任看護師（1名）
専任職員（管理栄養士・事務）（2名）
兼任職員（事務・用務）（2名）
兼任職員（障がい児補助・預かり保育）（20名）

内科医（1名）
歯科医（1名）
耳鼻科医（1名）
学校薬剤師（1名）
学校産業医（1名）

調理担当
栄養士（2名）
調理師（2名）
調理補助（4名）
【自園調理】

2. 事業報告（令和5年度いずみがおか幼稚園）

教育目標 「温かく安らぐ生活の中で、豊かな感性、好奇心、思考力の基礎を培う」

- ・健康な生活の仕方を身につけ、自分のことを自分でしようとする子ども
- ・自分を大切に、友達も大切にする子ども
- ・ちがいを受け入れ共に育ちあう子ども
- ・よく見、よく聞き、よく考える子ども
- ・心を動かし、やってみようとする子ども
- ・感じたことを豊かに表現し、自分らしくのびのび生活する子ども

重点課題

- ① 教職員一人一人の感じ方があり自分なりの価値観をもっている。それぞれの考えや意見交換をする中で異見を受け入れ理解しようとする中で自分なりに納得して仕事ができる環境づくりを行った。仕事の方向性や着地点については共通理解できるよう計画的に話し合う機会をもつようにする。
- ② 園児、教職員の地域行事への参加、園行事に地域の未就園児を招待、園を開放して地域の方に園に来て過ごしてもらおう中で在園児が生活する姿、保育の営みを見てもらう機会が増え、園に興味をもってもらえたことで、一時預かり利用や満3歳児クラス入園につなげる。
（絵本作家「さいとうしのぶさん」の絵本ライブ・こどもまつり・おたのしみ会等）
- ③ ICTの活用（保護者におがスマ導入）により配布物やお知らせ等の一斉配信によるペーパーレス化、欠席連絡等の保護者からの連絡をパソコンで確認できるようにする。また、職員はSmartHRの導入により各種手続きの手間を省略する。
- ④ 仕事を分担するにあたり、それぞれの進捗状況を確認し合いながら仕事を進めることにより時間にややゆとりをもって期日までに仕事を進めたことで効率化につなげる。

研究テーマ

『 互いの「ちがい」を受け止め 理解しようとする 』

(1) 「幼保連携型認定こども園としての保育・教育」

- ① 在園児と未就園乳幼児に本園の園庭や空き保育室を定期的に遊び場として提供したことで、同年代の子ども同士と一緒に遊んだり、子どもを介して保護者同士がつながり「子ども」について話せる

関係性が出来たりしてきた。また、保育教諭とのかかわりを重ねていく中で、家庭で気になることや困っていることについての質問を受けることも出てきたことから、園に対する安心感が見られた。

- ② 家庭で親子が安心して過ごせるよう地域や関連機関と密に連携し見守りを進めてきた。
また、保護者の希望により療育機関と園と保護者の合同カンファレンスを行い、保護者の願いをもとに今後の支援の仕方を考える機会をもった。
- ③ 保護者アンケートより、「保護者対応や保育内容について、教職員によって対応に差がある。」「園内の安全面についてはフェンスの高さが低く不審者が入れるのではないか。」といった意見があった。一方、子どもの気持ちを丁寧に受け止め対応してもらっていることで安心していているといった意見もあったことを受け止め、相手の立場に立って対応することの大切さを再確認した。
- ④ 認定こども園となった3付属園で連携をとりながら、地域、形態の差を考慮し互いの保育の資質向上や園児募集方法など合同で話し合う場を設けたり新任教諭の育成のための研修を行ったりし個々の保育形態や働き方など互いの資質向上ができるよう取り組んだ。

(2) 「園児の生活の充実と安全確保」

- ① 新型コロナウイルスが第5類となったことで行事のあり方をコロナ前に近い状態で行った。
- ② 危機管理マニュアルの改訂をするとともに、堺市消防局より救命救急講習に来ていただき心肺蘇生法や異物除去、止血法などの実地訓練と講習を受け緊急時の対応の強化を行った。
- ③ 不適切保育やヒヤリハットについて受講し、自分の保育について見直す機会をもった。また複数の観点から子どもの姿を予想し安全面に配慮することと、ヒヤリハットの報告を皆で共有し子どもの目線になって注意箇所の確認、子どもの状態把握にも努めた。
- ④ 昨年に引き続き園内教育・保育研究の様子をビデオ撮影し行った。
保育教諭それぞれが持つ課題については、日々の保育の振り返り、それを受けての計画、PDCAの見直しを強化した。研究保育でのフィードバックについてはそれぞれの保育教諭の考えを大切にすることから本人が自分なりに保育に活かそうとする姿を見守ることも大切にした。
- ⑤ 保育ブックナビ（株式会社フレーベル館発行）「研修アドバイザーと創る新しい園内研修のかたち」で本園の園内研修の様子が取り上げられ掲載された。
- ⑥ 仕事の効率化として係の分担をしているが、目標期日の明示、そこに至るまでの計画、進捗状況を報告し合うことでそれぞれがより意識しゆとりをもって仕事が進められるようにした。

(3) 園内教育・保育研究の記録をまとめ研究誌「あしあとXXVII」を刊行。

(4) 高校生が「探求の授業」で本園を訪問した。東大谷高等学校2年生3名は「感情と表情の関係性」男女差年齢差はどのように見られるか？という視点で観察と教職員へ質問をした。また、宮城県2年生3名が修学旅行中に来園し「眠育」についての学びを深めた。

(5) 地域との連携、つながりが活発に行えた。（三原台小学校1年生・5年生交流会、みはらまつり、みはら文化祭り、子育てフォーラム、三原台敬老会の方より手縫い雑巾の寄贈を受けた。）

(6) 年長児と保護者対象に「小学校出前授業」を行う。堺市立三宝小学校校長 安原 巧氏を迎え子どもには模擬授業、保護者には小学校進学に向けて講演していただき、小学校進学への期待を膨らませた。

園児数（認可定員 215 名）

令和 6 年 3 月 1 日現在

歳児	認可定員	認可定員内訳		1号認定 実員	2号認定 実員	3号認定 実員	歳児別 実員合計	組数	実員合計	
0歳児	60	11		/	/	64	11	1・2歳児混合 3	196	
1歳児		19					28			
2歳児		30					25			
満3歳児	155	1号定員	2号定員	7	/	/	0	1	196	
3歳児		55	100	5			28	33		2
4歳児				10			35	45		2
5歳児				15			32	47		2
合計	215	215		37	95	64	196	11	196	

園児確保のためのPR方法

- ① 堺市の認定こども園のページから本園にリンクするようにし、情報公開を行った。
- ② ホームページの写真入れ替え、内容の見直しを行い本園の特長がより伝わるよう厳選し掲載した。
- ③ 子どもの生活や遊びをポートフォリオにしてホームページで紹介し、園としての子どもの見取り方や教育・保育をする中で大切にしている子どもの姿とその受け止めを知らせた。
- ④ 0歳児からの未就園児を対象に子育て支援クラス（いちご組）を開始。また、遠方の方への駐車場開放を行ったことで沢山の方が園に来て過ごすことが増えた。
- ⑤ 未就園児招待行事のお知らせポスターを園のフェンスや地域会館、近隣マンションの掲示板に貼り周知したことで来園者がいちご組に登録し園利用につながった。
- ⑥ 地域秋祭り（みはらふるさとまつり）で年長児が和太鼓の演奏依頼を受けた。園の取り組みを知ってもらう良い機会となった。また、園児が太鼓をしている姿が地域の広報誌に掲載された。
- ⑦ 入園説明会は、希望者のニーズに合わせて個別対応したことで園の保育内容への理解につながった。

〔 一時預かり事業（一般型と幼稚園型）、子育て相談（キンダーカウンセラー事業）、乳児家庭全戸訪問事業（電話での聞き取り・訪問）、満3歳児入園、未就園児いちご組・めばえなど
地域子育てフェスタ子育て相談・土曜日地域園庭開放 〕

入園の方法

- ・ 1号認定：コンセプトブックや入園説明会を通し、園の教育方針や理念を理解したうえで願書を提出、その後幼児観察と親子面接を実施する。
- ・ 2・3号認定：区役所による利用調整後、幼児観察と親子面接を実施する。

施設・設備の充実

（1）教育管理機器備品

- ・ 救助工具格納箱、お散歩カート

保育料

対象児	教育充実費 施設整備費	入園受入準備費	基本負担金	教材費	給食費
1号認定こども	50,000円	3,000円	保育料無償	毎月2,050円	毎月3,200円
2号認定こども					毎月4,900円
3号認定こども	0円	0円	所得に応じる	【0歳児】 おむつ代実費 毎月2,050円 【1・2歳児】 毎月2,550円	0円 基本負担金に含まれる

※基本負担金・教材費・給食費は8月も含む。